

2016年外来入院患者統計（2016年1月～12月）

■ 外 来 ■

月	初 診					再 診					合 計				
	消化器・ 肝移植 外 科	臨床腫瘍 科・乳腺 外 科	乳腺・ 甲状腺 外 科	消化器病 センター	I B D センター	消化器・ 肝移植 外 科	臨床腫瘍 科・乳腺 外 科	乳腺・ 甲状腺 外 科	消化器病 センター	I B D センター	消化器・ 肝移植 外 科	臨床腫瘍 科・乳腺 外 科	乳腺・ 甲状腺 外 科	消化器病 センター	I B D センター
1月	33	35	84	263	17	1,038	822	1,104	4,235	1,000	1,071	857	1,188	4,498	1,017
2月	52	33	69	284	26	1,122	927	1,007	4,572	941	1,174	960	1,076	4,856	967
3月	54	40	114	297	29	1,160	1,003	1,368	4,782	1,081	1,214	1,043	1,482	5,079	1,110
4月	53	39	88	296	18	1,063	930	1,014	4,759	926	1,116	969	1,102	5,055	944
5月	44	33	84	290	25	1,038	894	1,051	4,512	957	1,082	927	1,135	4,802	982
6月	46	33	129	311	32	1,162	888	1,169	5,222	1,103	1,208	921	1,298	5,533	1,135
7月	44	31	98	266	20	1,054	844	1,153	4,717	1,047	1,098	875	1,251	4,983	1,067
8月	39	30	88	242	20	1,129	921	1,073	4,843	1,049	1,168	951	1,161	5,085	1,069
9月	40	27	103	254	21	1,180	878	1,223	4,508	1,101	1,220	905	1,326	4,762	1,122
10月	48	33	80	273	23	1,166	850	1,058	4,691	1,055	1,214	883	1,138	4,964	1,078
11月	49	36	104	286	20	1,111	839	1,225	4,570	993	1,160	875	1,329	4,856	1,013
12月	45	37	82	290	18	1,179	911	1,243	4,492	1,121	1,224	948	1,325	4,782	1,139
計	547	407	1,123	3,352	269	13,402	10,707	13,688	55,903	12,374	13,949	11,114	14,811	59,255	12,643

■ 入 院 ■

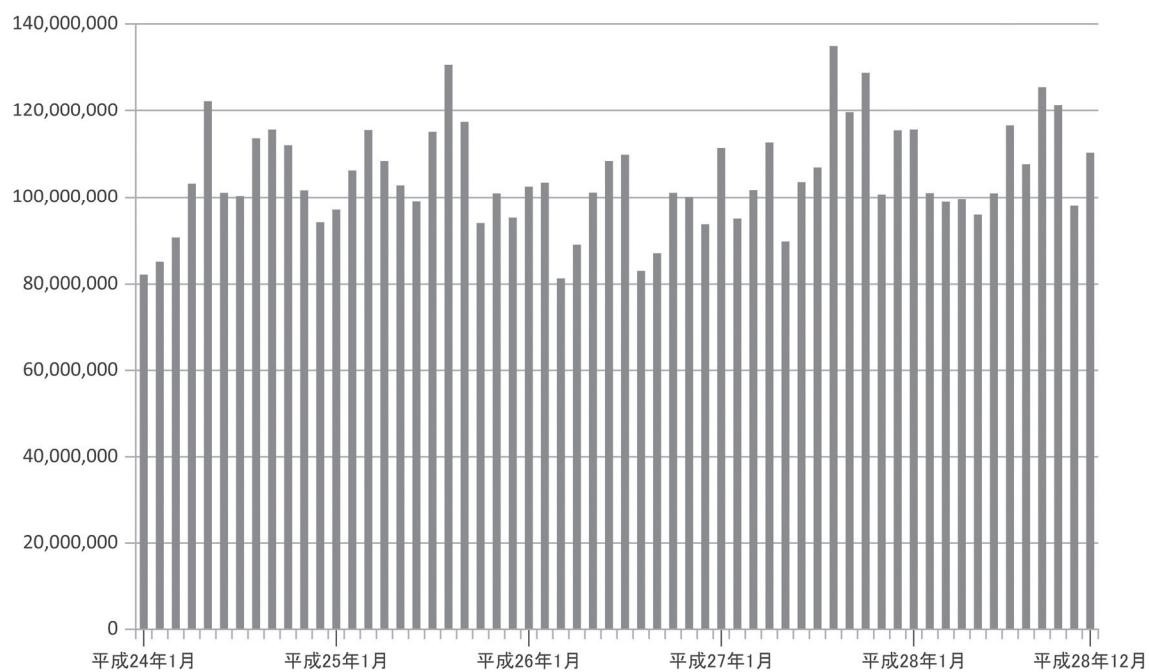
月	新 入 院					退 院					延 入 院 数				
	消化器・ 肝移植 外 科	臨床腫瘍 科・乳腺 外 科	乳腺・ 甲状腺 外 科	消化器病 センター	I B D センター	消化器・ 肝移植 外 科	臨床腫瘍 科・乳腺 外 科	乳腺・ 甲状腺 外 科	消化器病 センター	I B D センター	消化器・ 肝移植 外 科	臨床腫瘍 科・乳腺 外 科	乳腺・ 甲状腺 外 科	消化器病 センター	I B D センター
1月	104	42	33	256	28	86	40	26	211	31	1,407	441	292	2,434	455
2月	77	34	26	238	18	82	33	30	233	16	1,339	371	261	2,577	415
3月	80	57	32	261	33	82	48	30	262	34	1,361	563	302	2,925	503
4月	86	42	28	257	22	88	56	32	275	25	1,301	548	345	2,835	364
5月	86	46	28	262	16	73	39	22	249	17	1,244	582	258	2,600	318
6月	76	44	26	283	26	90	42	27	272	18	1,308	498	290	2,958	344
7月	102	35	32	243	30	84	44	35	272	36	1,547	505	303	2,821	461
8月	97	54	32	296	28	98	44	30	270	25	1,432	563	329	2,872	358
9月	105	30	33	255	21	97	41	30	248	24	1,667	413	278	2,763	397
10月	82	41	21	254	31	90	39	28	272	29	1,619	473	224	2,850	503
11月	94	41	25	242	28	96	41	22	226	28	1,419	481	245	2,581	455
12月	92	44	32	222	25	103	52	35	266	33	1,464	578	333	2,646	468
計	1,081	510	348	3,069	306	1,069	519	347	3,056	316	17,108	6,016	3,460	32,862	5,041

※ 数値は速報値です。

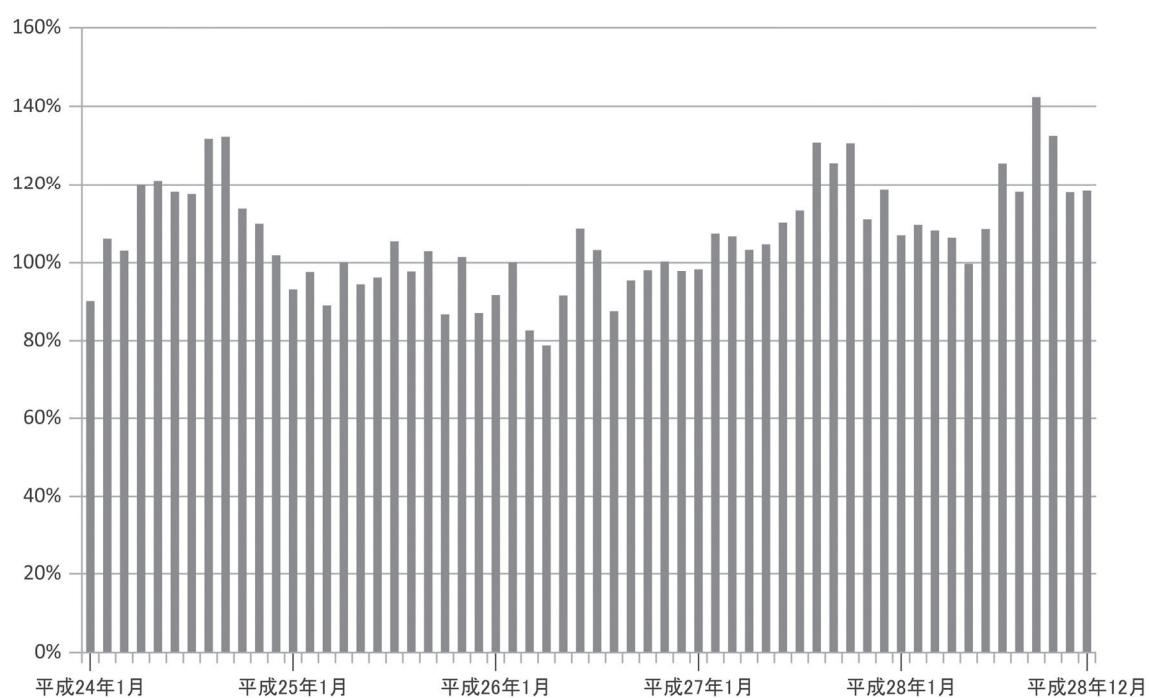
※ 延入院数は24時現在の在院患者数ではありません。退院患者も含まれています。

■ 消化器・肝移植外科の最近5年間の診療指標の推移 ■

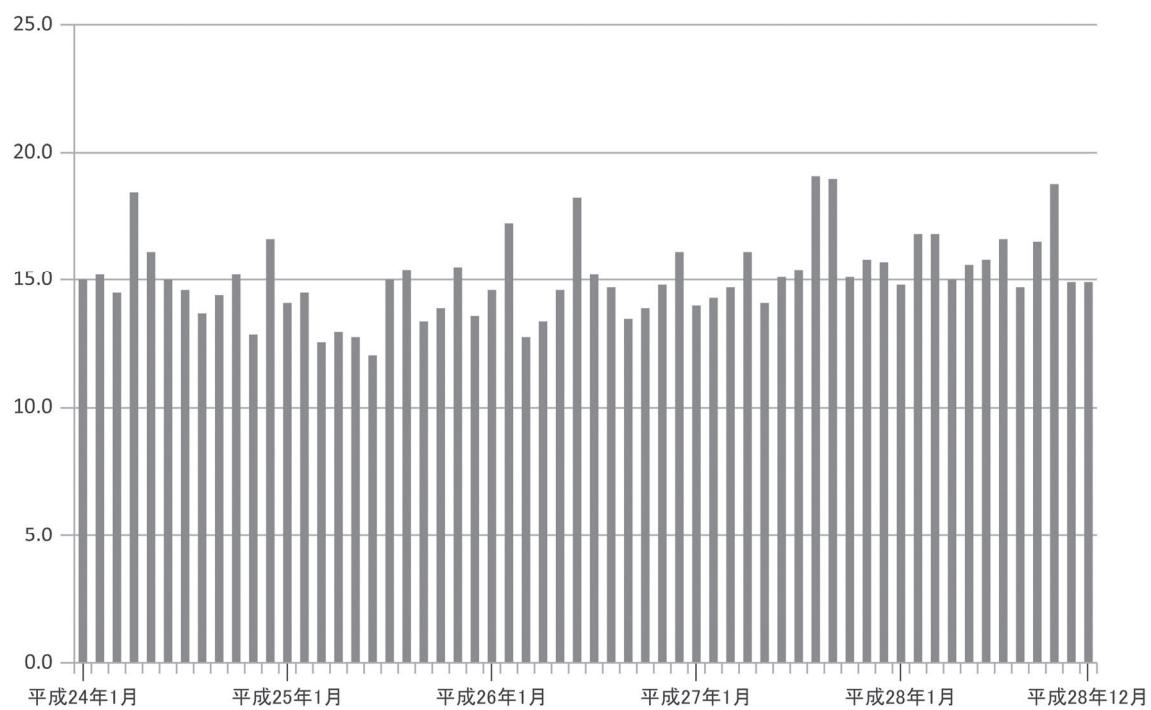
■ 稼働額(室料除く) ■



■ 病床利用率 ■



■ 平均在院日数 ■



外来日程表

(平成29年1月1日現在)

横浜市立大学附属病院

		月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
消化器・肝移植外科	初診担当医	原田 郁		後藤 晃紀		中山 岳龍
	再診担当医	菊地祐太郎	森 康一	森 康一 田 鍾寛 中山 岳龍	菊地祐太郎	田 鍾寛
専門外来担当医	肝・胆・脾 遠藤 格 松山 隆生 澤田 雄 胃 秋山 浩利 佐藤 圭 大腸化療 石部 敦士			肝・胆・脾 遠藤 格 松山 隆生 森 隆太郎 藪下 泰宏 平谷 清吾 肝胆脾化療		肝・胆・脾 熊本 宜文 森 隆太郎 澤田 雄 胃化療 秋山 浩利 佐藤 圭 大腸 石部 敦士 樋山 將士
臨床腫瘍科・乳腺外科	初診担当医	市川 靖史	小林 規俊 後藤 歩	市川 靖史 小林 規俊	徳久 元彦	
	再診担当医	市川 靖史	後藤 歩	市川 靖史 小林 規俊	徳久 元彦 小林 規俊	徳久 元彦 小林 規俊
専門外来担当医	化学療法外来 市川 靖史 徳久 元彦 大腸化療 市川 靖史 乳 腺 菅江 貞亭 島 秀栄	化学療法外来 後藤 歩 小林 規俊 徳久 元彦 化学療法外来 市川 靖史 小林 規俊 外来化学療法室 市川 靖史 小林 規俊 徳久 元彦 化学療法外来 小林 規俊 NET (神経内分泌腫瘍) 小林 規俊		外来化学療法室 市川 靖史 小林 規俊 徳久 元彦 化学療法外来 小林 規俊 NET (神経内分泌腫瘍) 小林 規俊	乳腺化療 菅江 貞亭 押 正徳 化学療法外来 後藤 歩	

横浜市立大学附属市民総合医療センター

乳 腺 甲 狀 腺 外 科	初診担当医 再来担当医	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	
		乳腺外来 門倉 俊明	乳腺外来 成井 一隆 足立 祥子 鈴木 千穂 嶋田 和博 山田 要光		甲状腺外来 益戸 功彦 戸田 宗治	乳腺外来 成井 一隆 足立 祥子 鈴木 千穂 島 秀栄	
(IBD)炎症性腸疾患センター	初診担当医	國崎 玲子	木村 英明	國崎 玲子 西尾 匡史 佐々木智彦	國崎 玲子 小柏 剛 西尾 匡史	國崎 玲子 小柏 剛 西尾 匡史 木村 英明	
		小柏 剛 國崎 玲子 大竹はるか	木村 英明 井上 英美	國崎 玲子 西尾 匡史 佐々木智彦 小柏 剛	國崎 玲子 小柏 剛 西尾 匡史 中戸川満智子	國崎 玲子 小柏 剛 松林 真央 大竹はるか 木村 英明 井上 英美	
消化器病センター	初診担当医	大田 貢由	國崎 主税	大田 貢由 湯川 寛夫	國崎 主税	南 裕太	
		午前 専門外来 担当医	下部消化管(大腸・直腸・大腸化学療法) 大田 貢由 虫明 寛行 菅野 伸洋 諫訪 宏和 中川 和也	上部消化管(食道・胃) 國崎 主税 湯川 寛夫 小坂 隆司 佐藤 渉	下部消化管(大腸・直腸・大腸化学療法) 大田 貢由 虫明 寛行 菅野 伸洋 諫訪 宏和 中川 和也	上部消化管(食道・胃) 國崎 主税 宮本 洋 田中 優作	肝・胆・脾 南 裕太 川口 大輔
		午後 専門外来 担当医	下部消化管(大腸・直腸・大腸化学療法) 大田 貢由 虫明 寛行 菅野 伸洋 諫訪 宏和	上部消化管(食道・胃) 國崎 主税 湯川 寛夫 小坂 隆司 宮本 洋 田中 優作	下部消化管(大腸・直腸・大腸化学療法) 虫明 寛行 菅野 伸洋 中川 和也	上部消化管(食道・胃) 國崎 主税 小坂 隆司 宮本 洋 佐藤 渉	ヘルニア 交代制 肝・胆・脾 南 裕太 川口 大輔
緊急対応		南澤恵佑 / 平井公也 / 井口健太 / 末松秀明					

2016年各施設入院手術統計

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学ちば医療センター	帝京大学横浜市民総合医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みどり赤十字病院	済生会横浜市南部病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター	都立駒込病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	聖路加国際病院	湘南記念病院かすく乳がんセンター	松島病院	藤沢湘南台病院	港南台病院	茅ヶ崎市立病院	総計
頸部																										
甲状腺癌	亜全摘術			5		2					1	57									1	7			73	
	全摘術										4	24														28
	その他				1						5	1									2					9
甲状腺腫	亜全摘術											10											5			15
	葉切除術			1		1					1	17										11			31	
	その他										1											22			23	
正中頸囊胞	切除術																									0
耳下腺腫瘍																										0
その他				6	3	3	2			5	12							1			3				35	
乳腺																										0
乳癌	拡大乳房切開術 (+形成)											2														2
	定型的乳切術 (+形成)										1	48				3									52	
	非定型的乳切術 (+形成)	45	103	48	20	56	32	14	8	152	50	117	34				10	1	417	217	6	27	1312			
	部分切除術 (乳房温存)	32	67	14	7	76	51		5	98	61	88	36			3	7		558	124	5	25	1225			
	その他			1	2				63	3										2		1	1	73		
乳癌局所再発	切除術 (+形成)	2	4			1			4		1										10				20	
	その他				1					2	2	1								9				1	16	
良性腫瘍	単純乳切除術										1	1		1						3					6	
	腫瘍摘出術	1	9	7	1	16	3	2	3	9	11	37							64	30	3	1	196			
	その他								2		4			3											9	
その他				1	2	4			54	2			63						8	7	1	141				
胸部																										0
原発性肺癌	肺切除術								2																	2
	肺葉切除術								25																2	27
	部分切除術 (胸腔鏡)								22																6	28
	その他																									0
転移性肺癌	肺葉切除術																									0
	部分切除術 (胸腔鏡)			1		10					2										1		14		0	
	その他																									7
その他の肺腫瘍									7																	3
縦隔腫瘍	胸腺摘出術								3																	6
	その他			1		2				3																1
膿胸	ドレナージ術																				1					1
気胸	プラ縫縮切除術								1												11		12			1
	プラ縫縮切除術 (胸腔鏡)								9																1	10
	その他	(肋骨腫瘍切除)							2																	2
食道																										0
食道癌	食道抜去術																									0
	3領域郭清	2	1	4								12						11							30	
	2領域郭清	5	13	3	11	3		2	6	5	3	3		2		7								63		
	頸部食道+喉頭全摘																								0	
	その他			3													3								6	
良性腫瘍	切除術																									0
食道静脈瘤	離断術																									0
	術中硬化療法																									0
その他	空腸瘻造設								1		3						1								5	
	噴門形成術									1								1								2

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	帝京大学ちば医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横須賀労災病院	横浜市立みなと赤十字病院	横須賀共済病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター都立駒込病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	聖路加国際病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	茅ヶ崎市立病院	港南台病院	藤沢湘南台病院	松島病院	港南台病院	茅ヶ崎市立病院	総計
直腸癌	前方切除		1	7	4	6	1	4	7	5	4	7	44	1	8	5		9					10		123				
	ISR			4				1																			5		
	腹会陰式切除術	2		3				1	1	3	6	3		2	1	2	1	1								26			
	腹仙腹式切除術	5						1			2																1		
	仙骨腹式切除術																										0		
	骨盤内臓全摘術			2				1			2	2														1			
	腹腔鏡下切除術	23	101	19	41	46	38	2		16	65	37			1		39	3					9		440				
	非切除人工肛門	2	15	2		4	2	1	6	2	6	1	14		3			1					8		67				
	その他 (Hartmann を含む)	4		3	2	2		1	4		3		20			2	5									46			
肛門癌	直腸切除術																										0		
	局所切除術																										1		
	非切除人工肛門			2	1																					3			
	その他																										0		
再発結腸癌	腸切除術	2	3				1					1	1													8			
	非切除人工肛門	1																7								8			
	その他	2	3	2		1						3					2									13			
再発直腸癌	直腸切除術	1	3	1					1	2					2											10			
	骨盤内臓全摘術			1																						1			
	局所切除術						1																			1			
	丂径リンパ節郭清術					1																				1			
	非切除人工肛門	3									1						3									7			
	その他	1	1	1	1		1																			5			
結腸ポリープ	腸切除術 (腹腔鏡を含む)			1	1	7					6						2									17			
	腸切開ポリープ切除術																										0		
	その他																										0		
直腸ポリープ	腸切除術			1																							1		
	腸切開ポリープ切除術																										0		
	経肛門的切除術	1		1	1	2	1					1	3		1		1				24	6			42				
	その他																										0		
肛門ポリープ	切除術										2					3	5	1					191	1		203			
大腸憩室炎	切除術	2	2	3		9	6			9	4			2	2	1	2									42			
	ドレナージ術																										0		
	その他										2															2			
大腸カルチノイド	切除術			1		1				3	2															7			
大腸悪性リンパ腫	切除術		1																								1		
人工肛門状態	閉鎖術	15	46	16	2	21	6	1	2	9	49	19	25	2	5	20	24	1					10		273				
潰瘍性大腸炎	造設術				7																						7		
	大腸亜全摘術			8		17					1															26			
	大腸全摘術	22	1	55																							79		
	残存直腸切除術	11		14																							25		
	空腸部分切除術																										0		
	その他	2		25																							27		
Crohn 病	小腸部分切除		20		115																						135		
	結腸切除術	1	8		29																						38		
	その他 (Seton)		4		40																						92		
腸結核																											0		
Meckel 憩室	切除術		1		1	2					2	1														7			
小腸腫瘍	切除術	1	2	1		1	5			5	2	4	2					9								32			
	その他																										0		
その他		4	12	2	10		5	3			11						3	1								51			

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	帝京大学ちば医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜市立みどり中央病院	横浜掖済会病院	がん・感染症センター都立駒込病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	聖路加国際病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	茅ヶ崎市立病院	港南台病院	藤沢湘南台病院	松島病院	港南台病院	茅ヶ崎市立病院	総計
肛門																												0	
痔核	結紮切除術		1	4	1	2		12	5		6	5	1	2	2	8	58	1			2216	94					2418		
	PPH法																6						1				7		
痔瘻	根治術		3	1	1			1		7	2		1		8	51	2			1158	60					1295			
肛門周囲膿瘍	切開排膿術		1		1				2		1	1	1	4		7	6			599	21	3				647			
裂腔																	6				290	19					315		
直腸脱	Gant-三輪法など		1		2	1		4		4	3		1	1	3	1					50	28					99		
肛門狭窄																	8				210	8					226		
その他						1											11						11	1			24		
消化管その他																												0	
急性虫垂炎(幼児)	虫垂切除術				10	5	7	3			2	16	16														59		
急性虫垂炎(成人)	虫垂切除術	9	1	9	40	90	72	15	32	88	69	62	75		22	2	31	15				27				659			
腸閉塞	癒着剥離術	3	10	9	6	18	12	2	5	19	29	21	20		7	2	2	14	5			11				195			
	腸切除術	6	4	8	1	27	10	3	6	10	5	22	20	2	5	2	15					10				156			
	吻合術	3		7		3				3	7															23			
	その他(人工肛門造設)						1	1		6	3		6				2									19			
腸重積	整復術									1								1									2		
	腸切除術									1																	1		
縫合不全	腸切除術					1	2		1		3	9														16			
	ドレナージ術		2		1	2		1		1	2	1														10			
	人工肛門造設術	10		2	2	2		2	1	5	3	10														37			
穿孔性腹膜炎	人工肛門造設術	7		3	6	6	5	1	10	4	15	13		2								2				74			
	ドレナージ	5	9	3	9	22	6		2	3	15	10	6	3	1		1				9				104				
残胃穿孔	ドレナージ																										0		
腸間膜腫瘍(腸切)					1	2	3				1	1														8			
その他		2		3	4		15	1	3	57	13						1					1				100			
肝胆道																											0		
原発性肝癌(HCC)	肝切除術	23	6	4	11	6	3		10	17	10	3		5	1	24	3									126			
	肝動注																										0		
	その他		1	1	1						1															4			
原発性肝癌(CCC)	肝切除術	6	2	1	1	1				1		2		1		2	16									33			
	肝動注																										0		
	その他	2				1																					3		
転移性肝癌	肝切除術	24	9	31	15	7	18	5	4	10	20	17	8	11	42	1					3					225			
	肝動注				6																6						6		
	その他	1									2	2															5		
胆囊癌	胆囊摘出術	1			2	2	3																				8		
	胆囊床切除	2	3	2	1	3	1			2	2	3					2									21			
	S4下5切除			4	1																						5		
	拡大肝切除術				2					1							1									4			
	肝切除+PD																										0		
	その他	4									1	1					1									7			
胆管癌	PPPD(+肝切除)																5	1									6		
	PD(+肝切除)	9	3	1	2	1	2		1	1	1	3		1		1										26			
	総胆管空腸吻合術																				1						1		
	その他	9		1						2	1																13		
乳頭部癌	PPPD																	3									3		
	PD	8	2	1	1		2		1							1	4	2									22		
	胃空腸吻合術																										0		
	その他(試験開腹)				1																						1		

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	帝京大学ちば医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市立市民病院	横浜労災病院	横須賀共済病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜市南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	横浜市立みなと赤十字病院	NTT東日本関東病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	聖路加国際病院	茅ヶ崎市立病院	港南台病院	藤沢湘南台病院	松島病院	港南台病院	茅ヶ崎市立病院	総計	
肝門部胆管癌	肝切除術	11		1	1		2									2	3											20	
	拡大肝門部胆管切除+PD	1																										1	
	胆管切除			1	1																							2	
肝血管腫	肝切除術				1								1															2	
肝嚢胞	肝切除術			1			1																					2	
	開窓術	2		3	1	4	1						2	1			1	2										17	
肝膿瘍	ドレナージ術																	2										2	
	開窓術																											1	1
肝内結石	肝切除術	1	2	1																									4
	その他					1																							1
胆囊結石	開腹胆囊摘出術	5	3	28	24	6	9	28	40	20	18	11		6	2		7	3									1	211	
	腹腔鏡下胆摘術		19	21	76	76	111	27	28	115	168	94	153	12	29	38	55	82	17									52	1173
総胆管結石	胆総胆管切開術(T)	1	1			1	1				1								1									6	
	胆総胆管切開術(R or C)			2	1		2				2	3			1	2	2										3	18	
	胆摘経胆囊管の切石																											0	
	その他											4																4	
胆囊ポリープ	開腹胆囊摘出術		1									1	1			1												4	
	腹腔鏡下胆摘術	2	4	5	6	8	2		5	3	12	9		2			18	1									77		
	その他																											0	
総胆管囊腫	囊腫切除胆道再建					1					2					2												5	
脾胆管合流異常	胆囊摘出術					1	1																					2	
	その他	1	2								1																	4	
生体肝移植																													0
その他(良性乳頭部胆摘総胆管切開術(R))					2						3																	5	
脾臓・脾臓																													0
脾癌(IPMN, MCN を含む)	PD	36	7	1	15	9	6		2	6	5	6		4		6										2	105		
	PPPD															25	8											33	
	TP															3	3											6	
	脾体尾部切除	16	11	3	7	6	3		6	4	2	1			26	14									4	103			
	部分切除		1												1													2	
	試験開腹・生検	45	3					1	1	1		9			11	1											72		
	消化管バイパス手術			1			1			2	1																	5	
脾囊胞	切除術	1				1																							2
慢性脾炎	PD				1													1										1	
	PPPD																		1										1
	その他	7				1					1				1			1										10	
ITP	脾臓摘出術(開腹)												1	1															2
	脾臓摘出術(腹腔鏡)			1							2	1																	4
その他		1		3	1	1	2	1		1							1	4										15	
ヘルニア																													0
腹壁瘢痕ヘルニア	根治術	1	1	4	3	2	4	1	2	3	11	14	6	8	5	7	8	4								5	89		
臍ヘルニア	根治術					6	2		2		1	2	4		1	2	3	5	1									29	
両径ヘルニア(幼児)	根治術					6	1	7	1		2	3	4															24	
両径ヘルニア(成人)	根治術(従来法)						4		1	98	1							2								14	120		
	根治術(腹腔鏡)			3	4		4			71	15	28	84	72	49	5		22								70	427		
	メッシュプラグ	29	98	17	2	37		150	9		7		5														354		
	PHS									70								169										239	
	その他			2	118	55	65		31		88	71	30	85		10											555		
大腿ヘルニア	根治術	1	2	4	10	3	4	3	1	6	2	1	4	3	5	1	1										51		
閉鎖孔ヘルニア	根治術				1	2		2	1		1	3	1		1		1								1		14		
その他						2	5	2			3	3																15	

		横浜市立大学附属病院	横浜市立大学市民総合医療センター	帝京大学ちば医療センター	国立病院横浜医療センター	横浜市立市民病院	藤沢市立市民病院	伊東市民病院	横須賀市民病院	横浜労災病院	横浜市立みなと赤十字病院	済生会横浜南部病院	済生会若草病院	横浜保土ヶ谷中央病院	横浜掖済会病院	NTT東日本関東病院	がん・感染症センター都立駒込病院	長津田厚生総合病院	育生会横浜病院	聖路加国際病院	湘南記念病院かまくら乳がんセンター	茅ヶ崎市立病院	港南台病院	藤沢湘南台病院	松島病院	藤沢湘南台病院	港南台病院	茅ヶ崎市立病院	総計
血管																											0		
下肢静脈瘤	Stripping															18											18		
動脈血栓症	血栓摘出術																										0		
腸間膜動脈血栓症	腸切除術	1				1	1						3														6		
門脈塞栓術		16	5										1														22		
肝動注カテーテル抜去		3																									3		
その他					2	4	1	6						10	32				13							5	73		
術後出血	開腹止血	7			1	1							3		1	2											15		
	開胸止血																										0		
後腹膜・腎																											0		
後腹膜腫瘍	腫瘍切除	5	2	3									1	3	2											16			
その他			1	7									33		2												43		
体表		4	1	5	25	4	26	124	36		1	9	35		10										10	290			
その他		11	2	34				3	9	31	2		1	15											892	32	1032		

疾患別5年生存率

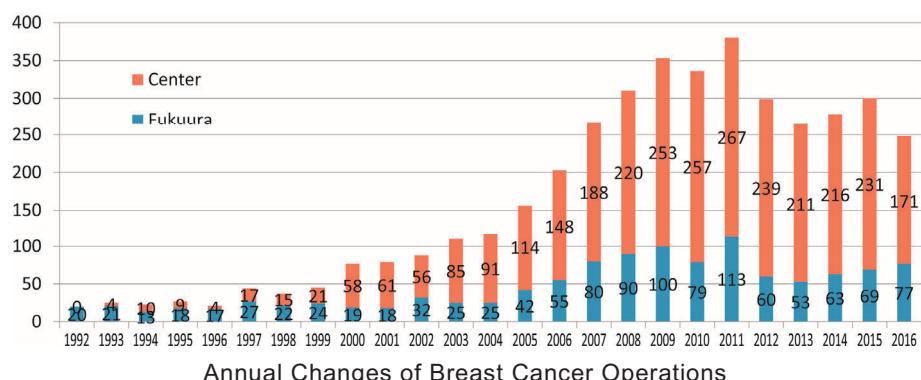
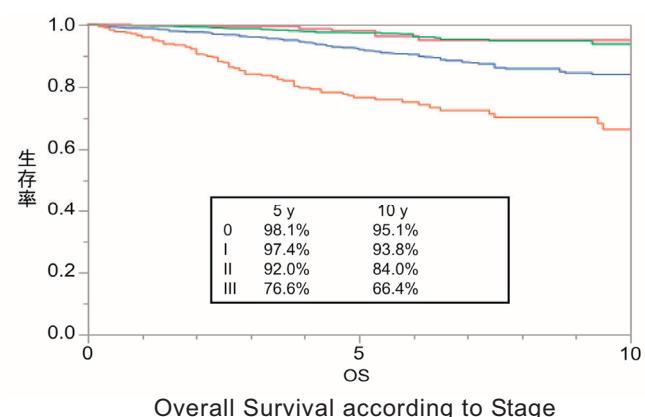
乳 瘤

菅江貞亭、成井一隆

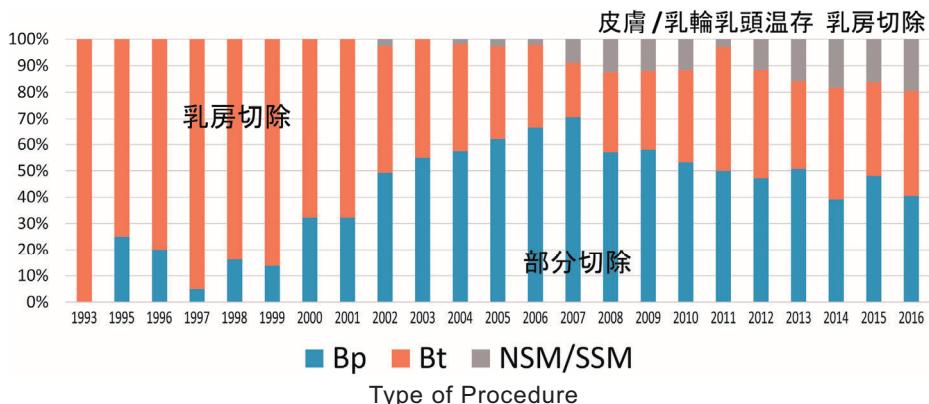
1992年から2016年までの横浜市立大学附属病院および市民総合医療センターで手術を行った症例について解析を行った。両施設合わせた病期別解析では、5年生存率が0期；98.1% I期；97.4% II期；92.0% III期；76.6%であり、10年生存率は0期；95.1% I期；93.8% II期；84.0% III期；66.4%であった。2016年原発巣切除件数は248件（附属病院77件、市大センター病院171件）であった。近年の傾向として温存術の割合が4-5割程度まで下がり、再建手術が1-2割を占めるようになってきた。今後もこの傾向は継続するものと思われる。2007年以降は毎年250件前後の手術をさせていただける環境となっており、今後もこの状態を継続できるように努力を続けていきたい。

また、CSPOR、SNNS研究会などの全国的な臨床

試験のほかに、YCOGやKBOGなど地域の臨床試験にも積極的に参加し続けている。今年度も関連各施設とも連携しながら臨床試験にも取り組んでいきたい。



Annual Changes of Breast Cancer Operations

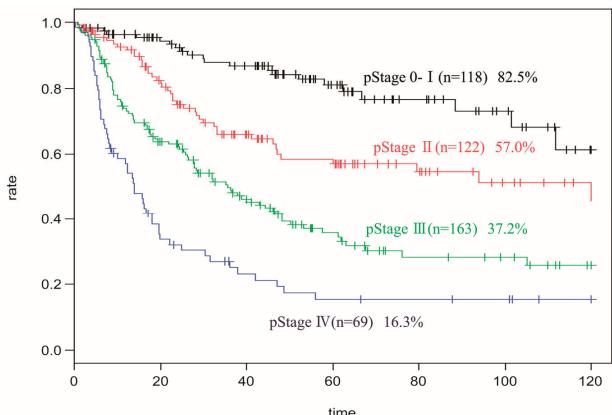


Type of Procedure

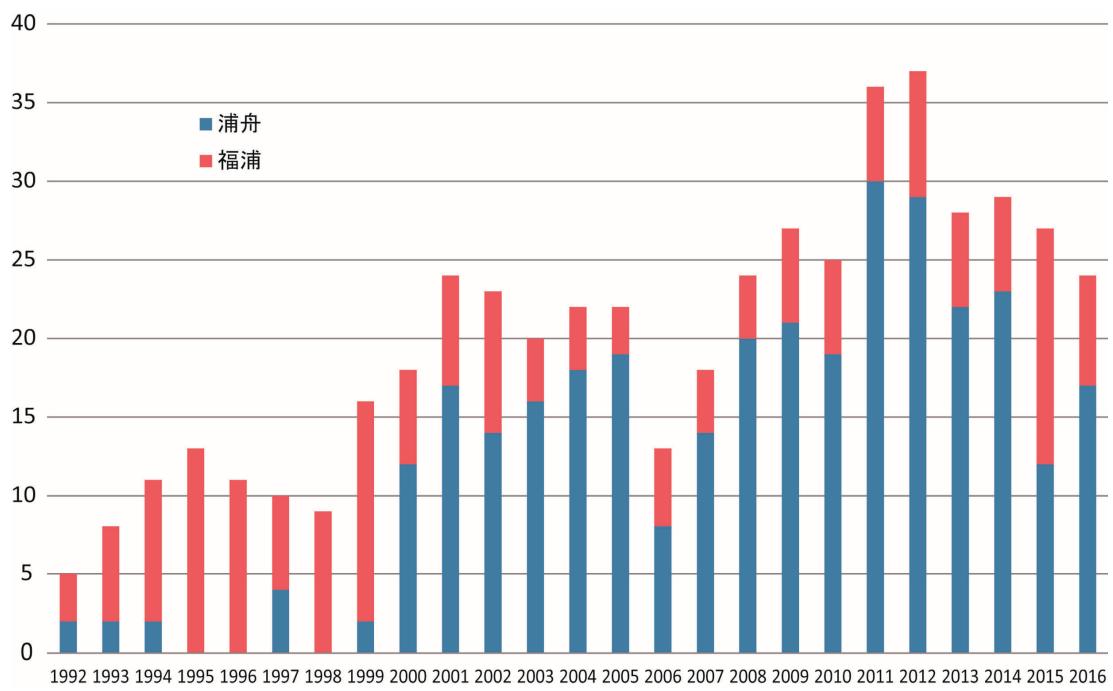
食道癌

小坂 隆司

2016年の切除症例は30例（福浦7例、浦舟17例）であり、1992年より合計496例となった。全切除症例の5年生存率は47.2%であった。Stage別の5年生存率は0-I=82.5%、II=57.0%、III=37.2%、IV=16.3%であった。cstageII,III進行食道癌に対して、以前は術前化学療法（NAC：FP療法）を施行していたが、2年生存率が44.4%と治療成績が好ましくないため、現在は、術前化学療法は行っていない。手術はセンター病院を中心に腹腔操作はHALS（Hand assisted laparoscopic surgery）、胸腔操作はVATS（Video assisted laparoscopic surgery）と低侵襲手術を行っている。



全切除症例の生存率 stage別



食道癌症例の年次推移（切除例）

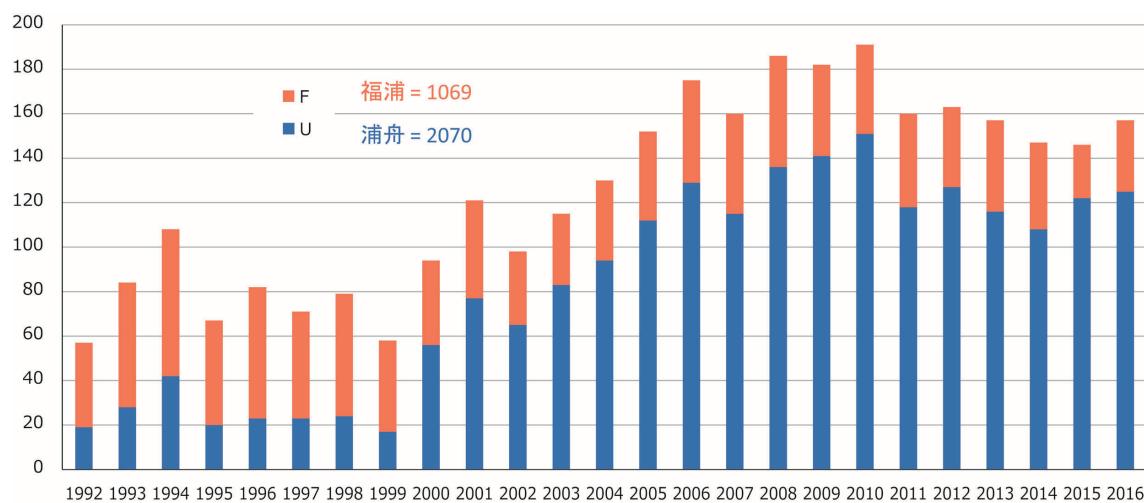
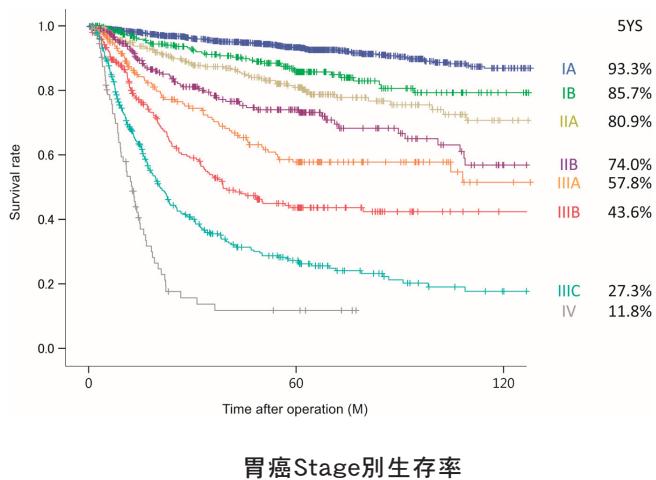
1992-2016 計496例

胃癌

佐藤圭

2016年の切除症例は157例（福浦32例、浦舟125例）であり、1992年からの合計は3139例となりました。全症例の5年生存率は74.3%でした。Stage別の5年生存率は、IA=93.3%、IB=85.7%、IIA=80.9%、IIB=74.0%、IIIA=57.8%、IIIB=43.6%、IIIC=27.3%、IV=11.8%であり、全国集計と比較して遜色ない成績でした。近年、腹腔鏡下胃癌手術症例は半数以上を占めるようになってきており、2016年は54.1%が腹腔鏡下手術でした。これにより腹腔鏡下胃切除術は合計で964例に達しました。今後も手術の低侵襲化と周術期成績の向上に努めていきたいと考えております。

臨床研究に関しては、YCOGにおいて化学療法や術後障害に関する試験を行っております。今後も関連各施設と連携しながら臨床研究をすすめていきたいと考えております。



胃癌切除症例の年次推移

1992-2016 計3139例

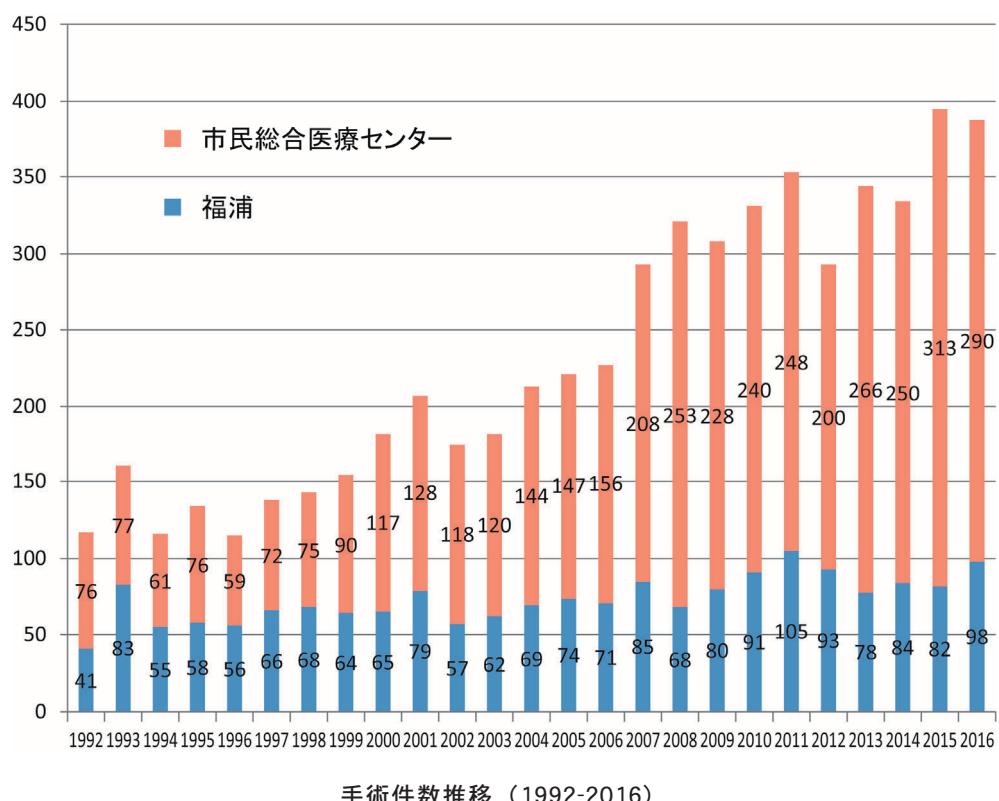
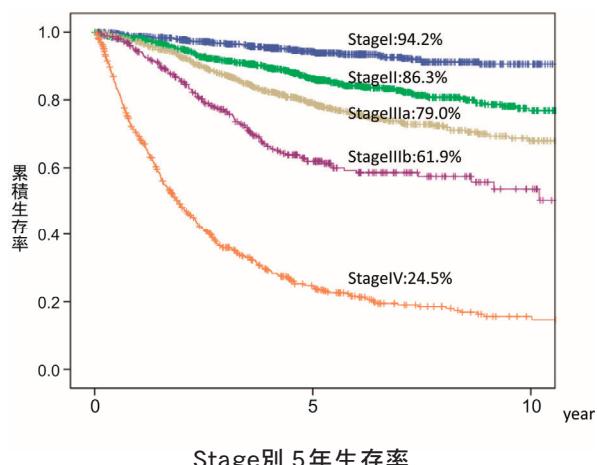
大腸癌

石部 敦士

2016年の手術件数は福浦98件、消化器病センター290件で合計388例でした。腹腔鏡下手術の割合は年々増加し、本年は92.9%が腹腔鏡下手術となっています。Stage別の5年生存率はI=94.2%、II=86.3%、IIIa=79.0%、IIIb=61.9%、IV=24.5%でした。

土屋名誉教授が考案された自律神経温存側方郭清は、近年腹腔鏡下手術でも広く行われるようになり、当科は日本をリードする存在になっております。またICG蛍光法によるリンパ流評価、腸管血流評価による縫合不全予防、直腸癌に対して肛門側からTMEを行うTaTME (Transanal total mesorectal excision) なども積極的に取り入れております。またda Vinci (ダヴィンチ) によるロボット支援下直腸癌手術は10症例に施行することができました。局所進行下部直腸癌においてはJCOG0212で側方郭清が標準治療であることが示されたが、さらなる治療成績向上のため、臨床試験として術前化学療法を積極的に施行しております。またYCOGを中心に多数の多施設共同研究

を行っており、徐々に成果がでてきております。本年も治療成績向上を目指し、新しいevidenceを確立できるように、手術手技、知識の研鑽、後進の育成に努めていきます。



炎症性腸疾患

木村英明

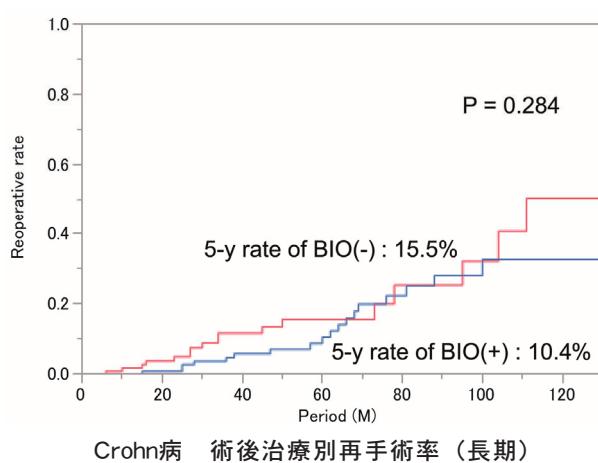
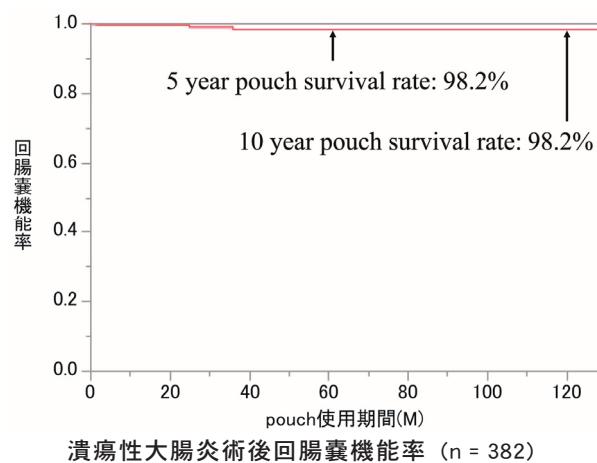
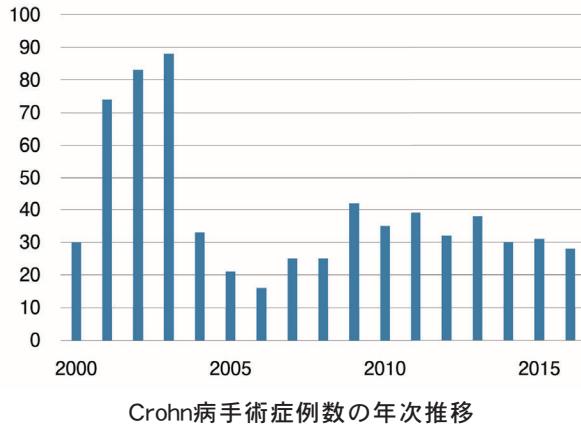
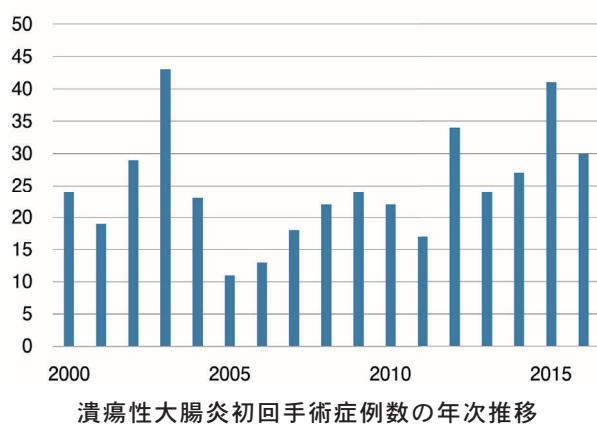
2016年のセンター病院炎症性腸疾患（IBD）センターの総手術件数は87件でした（潰瘍性大腸炎初回手術30例、2期目再建手術11例、Crohn病32例、その他腸管Behcet病、単純性潰瘍など）。

2000年からの潰瘍性大腸炎の累積手術例は423例、当科初回手術例は409例で、手術適応は難治260例（64%）、重症120例（29%）、癌、dysplasia29例（7%）、1期的手術は232例（57%）、このうち腹腔鏡補助下手術（HALS）は117例（29%）（2007年以降は87%）、緊急手術は111例（27%）でした。術後排便機能は経時的に回復し、術後1年における一日排便回数は 7.7 ± 3.0 、漏便（soiling）は14%で、回腸囊使用例の回腸囊機能率は10年で98.2%でした。

2000年からのCrohn病の累積手術例は673例で、腸管病変に対する手術は589例、標準術式は小範囲

切除、狭窄形成術で、122例（21%）を腹腔鏡補助下手術でおこないました。肛門病変に対する手術は135例で、標準術式はseton法ですが、38例（28%）は人工肛門造設を要しました。腸切除例における5年累積再手術率は12.6%、10年累積再手術率は34.0%で、当初は術後生物製剤導入例で再手術率は低下していましたが、長期経過例が蓄積するにしたがって生物製剤使用の有無で再手術率に差はなくなりました（5年再手術率、術後生物学的製剤投与あり：なし=10.4% : 15.5%、n.s.）。生物学的製剤の最適化をおこなうとともに、抗TNF α 製剤以外の生物学的製剤の治療効果に期待したいところです。

引き続き安全でQOLの高い手術をおこなっていきます。



原発性肝癌

熊本 宜文

我国では1989年から輸血用血液のC型肝炎のスクリーニング、住民を対象とした肝炎ウイルス検査を開始し、自覚症状のないHCVキャリアの拾い上げを積極的に行ってきました。さらに、C型慢性肝炎の治療に関しては直接作用型抗ウイルス薬の登場によりウイルス排除率は上昇してきています。このため、C型肝炎持続感染に起因する肝細胞癌は全国的に減少傾向にある。当科の肝細胞癌の手術症例も減少傾向にあり、2016年度の肝細胞癌の症例登録は29例であった。このうちC型肝炎に起因するものは11例(37.9%)で減少傾向にあった。それに対して、非B非C型(NBNC)肝癌症例は11例(37.9%)と増加傾向であった。NBNC肝癌の多くは大量飲酒や非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)由来であり、特にNASH由来の肝癌症例では、ウイルス性肝炎症例と比較すると肝機能は保たれているものの、定期経過観察がなされていないため腫瘍径が大きく22%の症例で10cmを超えていた。

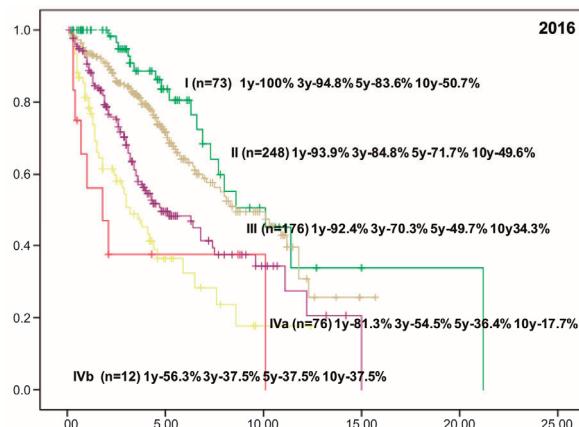
術前肝機能評価に関しては、アシアロSPECT/MDCT融合画像による分肝機能評価を行い、術前肝不全予測に応用している。特に門脈塞栓術後は、体積変化以上に肝機能は非塞栓葉へ移行しており適応の拡大の可能性が示唆されている。

術後管理に関しては肝不全死予防のため、早期予測、早期介入を目指しており、術直後のT.Bil>1.5かつAT-III<50はISGLS定義の肝不全B,Cとなる危険

群であり早期介入が必要と考えている。

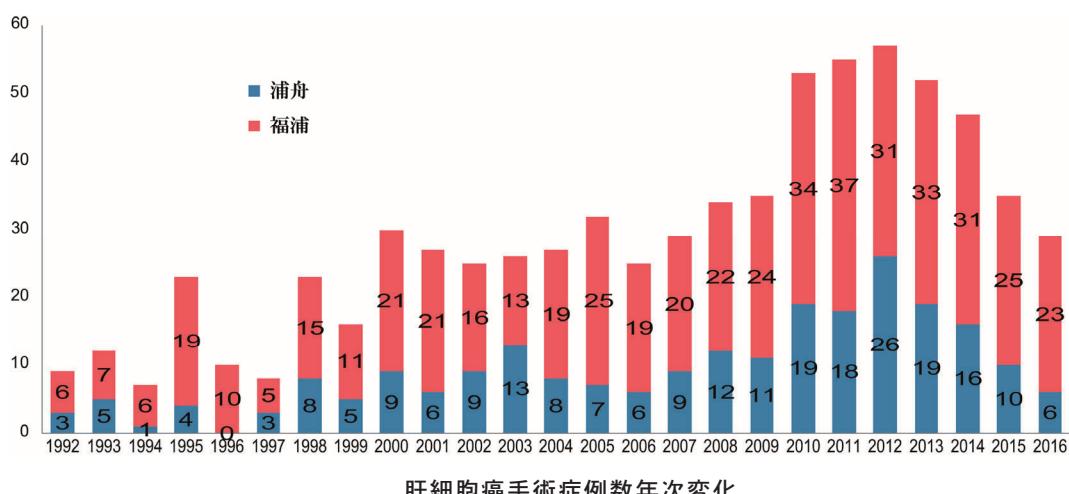
1992年から2016年までの587例の切除例のうちR2切除を除外したStage別5年10年生存率はそれぞれ、StageI:83.6%、50.7%、StageII:71.7%、49.6%、StageIII:49.7%、34.3%、StageIVA:36.4%、17.7%であった。予後規定因子は、肝内転移陽性、Liver damage BC、AFP400以上、腫瘍個数4個以上、最大腫瘍径50mm以上であった。

基礎研究では、動物モデルを用いた肝再生、肝不全の病態解析並びに治療を継続しており、肝不全の新たな治療を模索している。



初回肝切除症例Stage別生存率

(癌遺残、在院死、Ablation単独症例除く、N=587)



肝細胞癌手術症例数年次変化

転移性肝癌

澤田 雄、熊本宣文

当科では、大腸癌肝転移に対して、1985年より2016年末で636例に初回肝切除を実施してきました。2014年は初回肝切除27例、再肝切除5例の肝切除を施行し、非大腸癌症例を含めると、累計34例（福浦25例、浦舟9例）の肝切除を施行しました。大腸癌肝転移初回肝切除症例の5年生存率は50.5%でした（図1）。さらに、残肝再発症例に対しても、積極的な再肝切除療法を施行しており、100例（累計）の患者様に対し、切除を実施してきました。5年生存率は42.4%で、良好な成績を保っております。

現在の課題は、他院で、切除不可能と判断された肝転移症例に対し、化学療法・術式を組み合わせることで、切除を可能にすることと考えています。

1) 両葉多発腫瘍（4個以上） 2) 巨大腫瘍（ $\geq 8\text{cm}$ ） 3) 腫瘍脈管の浸潤している腫瘍 4) 予定残肝が小さい場合 5) 肝蔵以外に転移巣が存在する場合には、切除困難例と判定されることが多いですが、当院では、このような患者様に対し、臨床腫瘍科とも密に連携し、術前化学療法を実施することで、腫瘍の縮小後に、肝切除を実施する戦略をたてています（図2）。

さらに、切除後の予定残肝が小さい場合には、肝臓の再生能を利用して、門脈塞栓術併用切除を含め

た多段階肝切除や、3D画像を利用した血管合併切除併用肝切除を実施しています。

以上のような工夫をしながら、当科では、大腸がん肝転移の患者様に対し、最大限安全な手術療法を施行しており、さらに、臨床腫瘍科・大腸グループとも、連携しながら、診療をすすめております。また、大腸がん肝転移症例の他に、婦人科疾患、神経内分泌腫瘍、胃癌などからの肝転移の患者様に対しても、肝切除が有効な治療となる場合があり、このような場合には、積極的に切除療法を選択しています。

Survival rate; 1-y 89.9%, 3-y 63.0%, 5-y 50.5 %

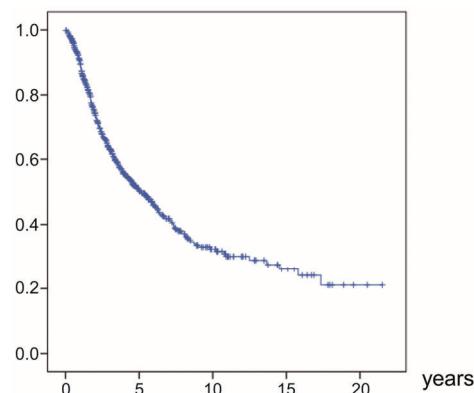


図1 大腸癌肝転移初回肝切除後生存率

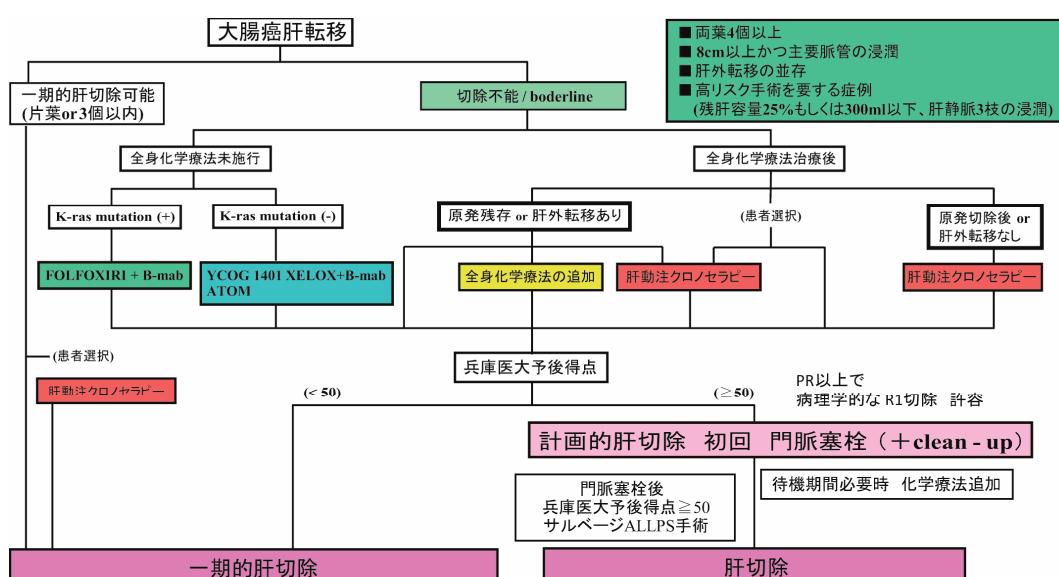


図2 当科での大腸癌肝転移治療方針

胆道悪性疾患

松山 隆生

胆道悪性疾患の本年度の切除手術症例数は肝門部領域胆管癌22例、胆囊癌4例、遠位胆管癌5例、十二指腸乳頭部癌11例、末梢型肝内胆管癌2例、合計44例で1992年からの累積胆道癌切除数は682例となつた(図1)。横浜市内・神奈川県下から多数の貴重な症例をご紹介していただいているため胆道癌切除数は年々増加している(図2)。いずれの症例も他院では様々な理由で治療が困難であると診断された症例であり、術前治療から手術、術後補助化学療法に至るまで難しい問題をいくつも解決していかなければならぬ。消化器内科、放射線科と協力しながら診療にあたり、胆道癌全体の5年生存率:45.1%、10年生存率:33.1%、MST:44.5ヶ月となっている(図3)。肝門部領域胆管癌は本年度22例の切除症例を経験し1992年からの切除数は231例となつた。切除症例全体の5年生存率は38.7%、MSTは37.8ヶ月であった。胆囊癌は本年度4例の切除症例を経験し1992年から138切除症例となつた。切除症例全体の5年生存率は52.1%、MSTは70.5ヶ月であった。遠位胆管癌は本年度11例の切除症例を経験し1992年から131切除症例となつた。切除症例全体の5年生存率は31.7%、MSTは33.5ヶ月であった。十二指腸乳頭部癌は本年度11例の切除症例を経験し1992年から115切除症例となつた。切除症例全体の5年生存率は64.4%、MSTは103.4ヶ月であった(図4)。

胆道癌に対する手術はいずれも高難易度手術であり、合併症発生率も他疾患に比べて多いことが問題である。教室では2008年から3D-CTによる術前切除シミュレーションを行ってきたが、現在ではこの3D-

CT画像を術野にtablet型端末を用いて持ち込むことでNavigation surgeryを行っている。2008年4月から行っている切除可能境界胆道癌(borderline resectable)に対する術前化学療法症例も2016年12月で101例になった。このうち73例(72.2%)に切除術を行っている。現在は観察期間中であるが3年生存率64.3%、5年生存率49.0%と効果が期待できる経過である。また、初診時に局所の過伸展や遠隔転移を有するために非切除と診断された胆道癌に対しても半年から1年間の化学療法を行い、病勢が進行しなければ積極的に切除を行っている。技術的に困難な手術を施行しなければならないが非切除症例よりは明らかに長期予後が期待できるため切除の可能性を常に考慮することが重要である。

胆道癌に対する最も効果的な治療法は外科的切除であり、術前化学療法、放射線療法、術後補助化学療法、胆道ドレナージ術、胆管炎のマネジメントなど多岐にわたる手技と知識が必要である。今後も手術手技、知識の向上、研鑽、教育に邁進していきたい。

肝門部領域胆管癌	:	231例
胆囊癌	:	138例
遠位胆管癌	:	131例
十二指腸乳頭部癌	:	115例
末梢型肝内胆管癌	:	67例
計		682例

図1 累積胆道癌切除数

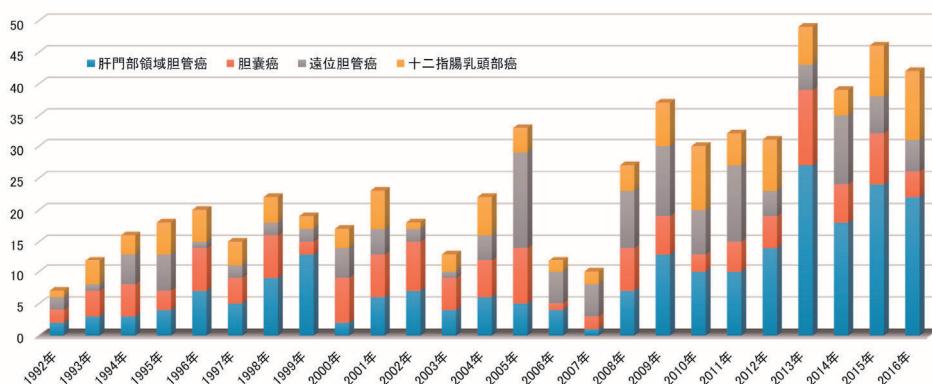


図2 胆道癌切除数 年次推移

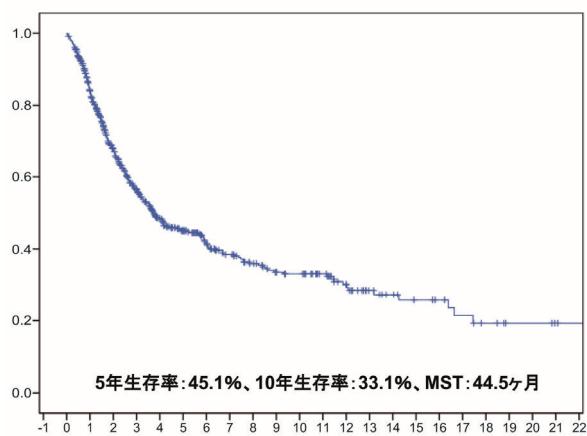


図3 1992年4月～2016年12月の胆道癌症例、
切除後生存曲線

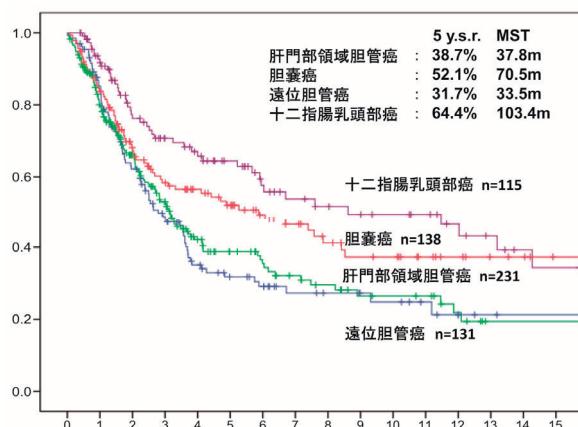


図4 1992年4月～2016年12月の胆道癌症例、
部位別切除後生存曲線

脾 瘤

森 隆太郎

2016年度の脾癌切除は47例（福浦42例、センター15例）であった。2015年は過去最高の57例であり、減少はあったものの全体的には症例数は年々増加傾向である（図1）。累積症例数は全体で725例、切除率は65%であった。術式の内訳は脾頭十二指腸切除35例、脾体尾部切除12例であった。その内血管合併切除再建を必要とした症例は20例（門脈合併切除再建16例、動脈切除再建4例）であった。切除例全体の5年生存率は25.4%であった。切除例のfStage別の生存曲線は図2の通りであった。

脾癌のResectability毎の予後はResectable脾癌の生存期間中央値は24.1ヶ月、5年生存率は25.4%、Borderline resectable脾癌で術前加療後に切除施行した症例の生存期間中央値は24.7ヶ月、5年生存29.6%、unresectable脾癌で切除が可能となった症例の生存期間中央値は26.3%、5年生存率は20%であった。

現在の冬瓜での脾癌に対する治療方針を表に示す。Borderline resectable脾癌に対してはGemcitabine+S-1療法から2016年度よりGemcitabine+Nab-paclitaxelによる術前化学放射線療法を施行している。Unresectable脾癌に関しては2014年度よりYCOGによるCFLAP studyとしてFOLFIRINOX療法を導入し切除率・生存率の向上を目指し症例集積中である。

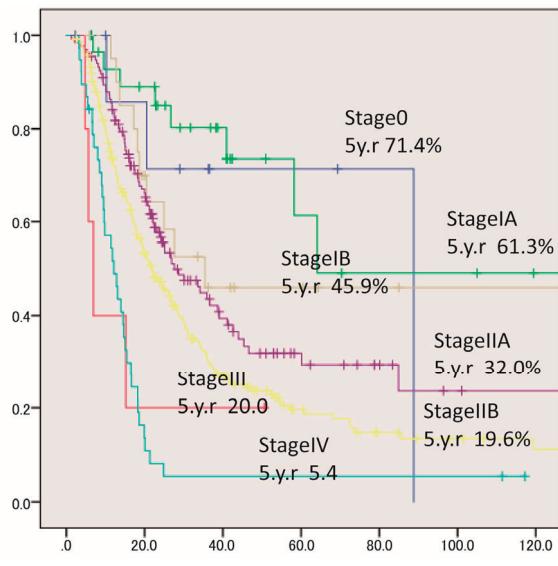


図2 切除例Stage別生存曲線

表 教室における脾癌治療方針

- ◆ Resectable (R) : Straight-forward surgery
- ◆ Borderline resectable (BR) :
Surgery after NACRT 2008-2015 GEM+S-1
2016- GEM+nab-PTX
- ◆ Unresectable (UR) : Long-term chemotherapy
 - GEM+S-1
 - GEM+nab-PTX
 - FOLFIRINOX

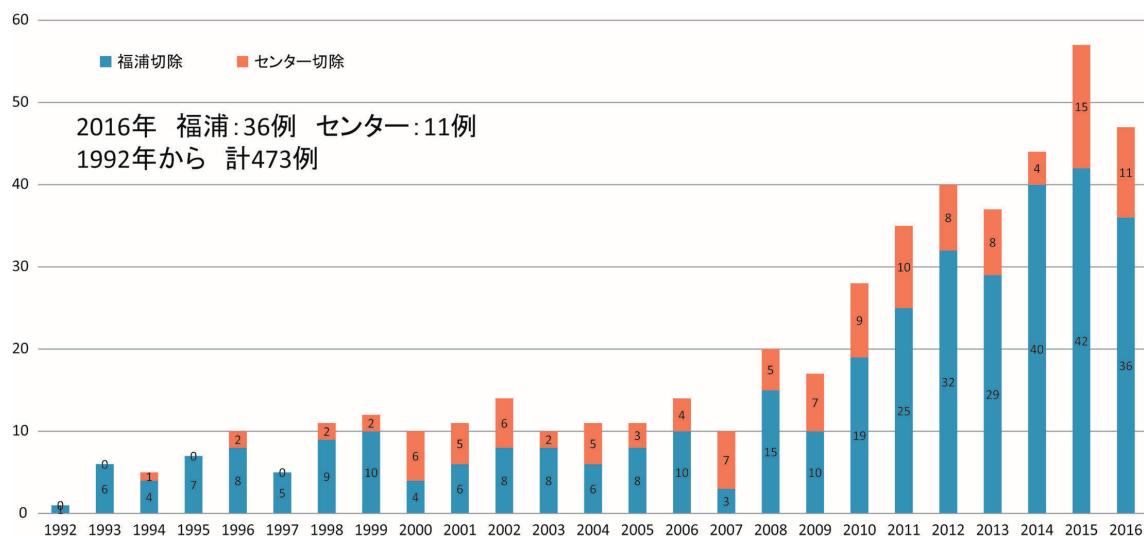


図1 脾癌切除数 年次推移

生体肝移植

澤田 雄、熊本宣文、武田和永

当院での肝移植は、1997年にはじまり、2017年1月現在、計64例です。2016年は肝移植コンサルテーション3件ありましたが、生体ドナーの不適格などで施行にいたりませんでした。現在、1年生存率は82.8%、5年生存率は73.2%（図1）と、良好な成績を維持しています。原疾患の内訳は、1. 肝細胞癌（n=14）、2. B型肝炎肝硬変（n=13）、3. 劇症肝炎（n=9）、4. 原発性胆汁性肝硬変（n=8）、5. C型肝炎肝硬変（n=6）、6. アルコール性肝硬変（n=5）、7. 原発性硬化性胆管炎（n=2）、8. 自己免疫性肝炎（n=2）、9. 胆道閉鎖症（n=2）、その他（n=3）となっています（図2）。

肝移植後は急性拒絶反応発症をおさえるため、免疫抑制剤の使用が必須です。しかし、その一方で、感染症合併率が、他の消化器外科手術に比較して高率といわれています。当院で施行した肝移植症例中、これまで周術期に約半数の症例が敗血症に陥りました。そこで、感染症予防の取り組みとして、術前からのリハビリ導入、シンバイオティクス栄養療法導入を導入しています¹⁾。導入後の7例では、生存率100%を維持しています。一方、C型肝炎ウイルス再発や肝細胞癌再発などの原疾患再発治療に関して、退院後は、消化器内科、さらに臨床腫瘍科と連携して診療を行っています。

2010年7月にわが国では、改正臓器移植法が施行されました。その後、脳死肝移植数が急増し、改正後1年間で55例からの脳死肝臓提供がありました。一方、現在、成人に対する脳死肝移植実施施設は、全国19施設ありますが、関東地方では、慶應大学、順天堂大学、東京大学、信州大学の4施設です。現在、

神奈川県下で成人の肝移植を行っている施設は当院のみで、かつ、横浜は、全国一番の人口を有する政令指定都市であるという社会的背景から、当院でも脳死肝移植施設認定を目指しております。また本学の地域貢献を考えた場合にも、必要なことと考え、これからも適切な症例があれば、肝移植治療を続けていくことは、当院での使命と考えます。関連病院の先生方より、可能性が少しでもあればまず紹介いただければと思います。また内科疾患のほか、Child C肝細胞癌症例（ミラノ基準内であれば保険、ミラノ基準外であれば自費診療）で、移植適応ありますのでご紹介のほどよろしくお願ひいたします。

- 1) Takeda K et al. Severe sepsis after living donor liver transplantation: risk factors and outcomes. Transplantation proceedings (2016) in press.

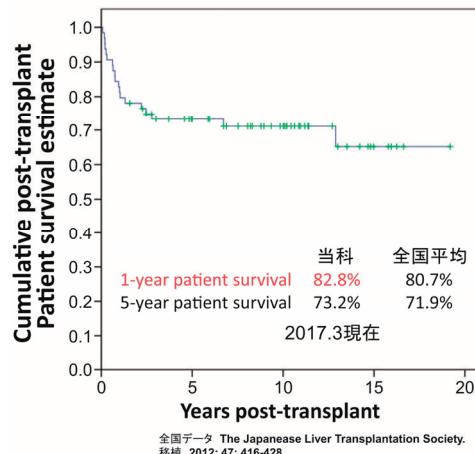


図1 肝移植後生存率

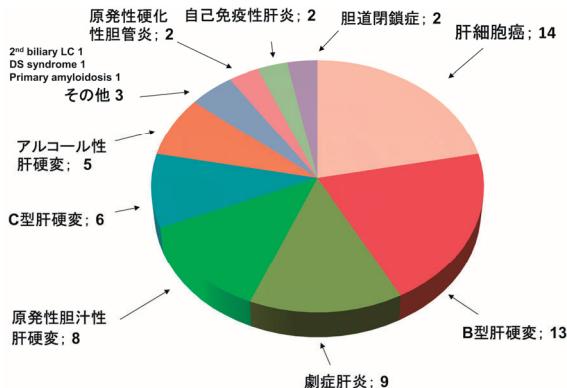
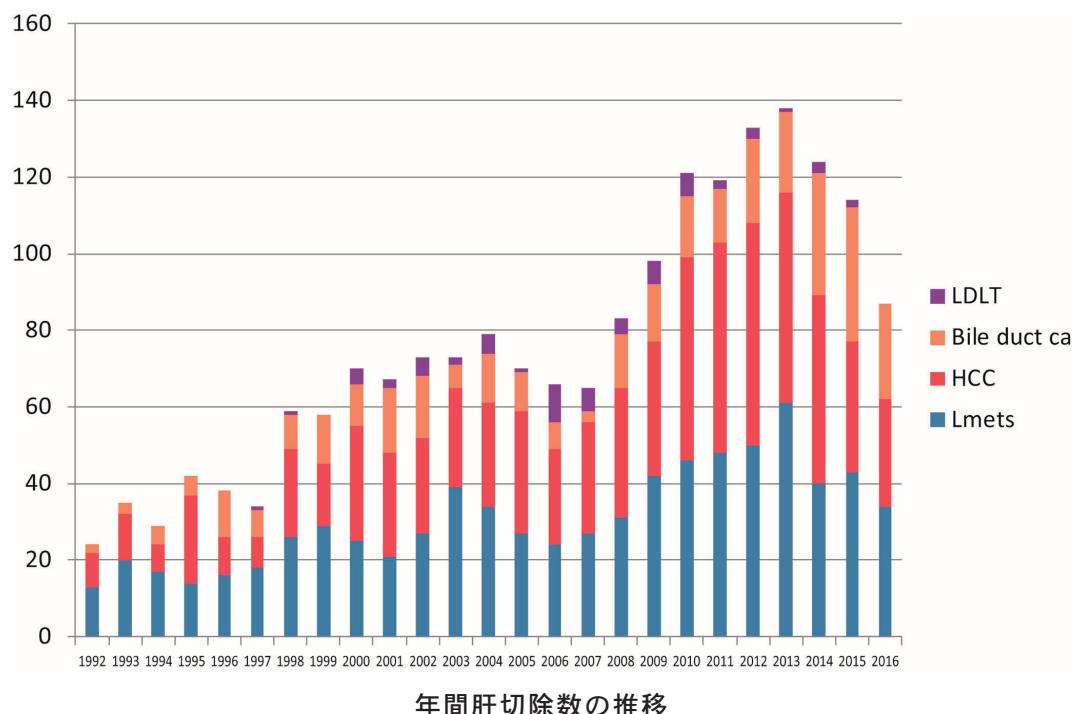
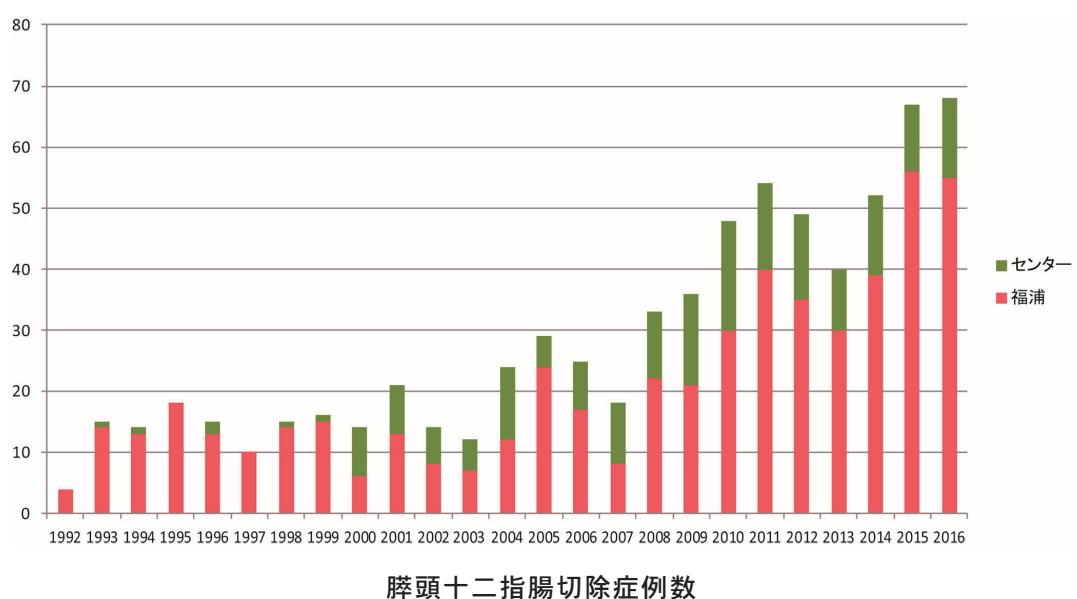


図2 肝移植症例原疾患の内訳

年間手術件数の推移



年間肝切除数の推移



膵頭十二指腸切除症例数